

2013年度 ピースアクション in ヒロシマ 報告



継承と創造 ～ヒロシマから平和な未来を築こう！～

- 被爆実相や被爆体験を、これからの世代に継承します。
- 「核兵器も戦争もない平和な世界」を求めるヒロシマの願いを共有し、全国に広げます。

開催日；8月5日（月） 参加；6生協51人

東都生協5名、東京南部生協4名、東京保健生協14名、東京ほくと医療生協7名、全労済東京都本部12名、パルシステム東京6名（被爆者交流会のみ参加）都連事務局3名（秋山、伊藤、中村）

今年度は、参加受付を「虹のひろば」会場で行い、それぞれの生協が直接現地に向かう流れとし、虹のひろば以外の日生協のプログラムに参加したり、独自にフィールドワークをしました。

まず、「ヒロシマ虹のひろば」では、開催にあたり浅田会長が「被爆者の平均年齢が78歳になったことを考えると、核兵器のない世界の実現を急がなければ」と挨拶しました。全国から約1,100人が集まり平和の願いをつなげました。

午後6時から広島YMCA会館にて被爆者との懇談を行いました。広島医療生協原爆被爆者の会の瀧本清也さん野崎スズ子さんから被爆体験を聞き、会長の丸屋博さんから解説をいただきました。また、共にお弁当を囲んで、各生協の紹介や組合員の感想を述べ合い、交流をしました。

虹のステージ

■ オープニング

国内外で演奏会を行っている「広島ジュニアマリンバアンサンブル」のパワフルな演奏で元気に始まりました。

■ 講演

広島平和文化センター前理事長スティーブン・リーパーさんは、生協に求めるのはコミュニティを強めることと賢い消費者になって平和のうねりを起こすことと流暢な日本語で語りかけました。

■ フィナーレ

虹のひろば合唱団による歌で会場がひとつになり、閉会となりました。



みんなのひろば

■ 書道でピースメッセージ

安田女子大学書道学科の学生が平和の願う言葉を表現しました。



■ うたごえコーナー

生演奏の伴奏つきで「生協ひろしま虹のコーラス」の皆さんと楽しく歌いました。

■ つながろう CO・OP アクションコーナー

被災した岩手・宮城・福島3件の生協が参加して、復興に関する活動を紹介・展示しました。



■ 展示コーナー

全国23の生協で行われている平和・国際交流活動がさまざまに紹介されていました。



「被爆者との交流 ～被爆証言をお聴きする集い～」

被爆証言 広島医療生協 原爆被爆者の会

- ・ 瀧本 清也 さん
- ・ 野崎 スズ子さん

解説 広島共立病院名誉院長、原爆被爆者の会会長

丸屋 博 さん

被爆者が話をする
機会は、そう多く
はない。(丸屋)



(左から) 丸屋さん、瀧本さん、野崎さん

仲間と3人で焦土と化した広島に入ったが、累々と重なる死体を乗り越えて広島駅までたどり着いた。子どもの死体には胸が痛んだ。(瀧本)



たった1発の爆弾で広島は吹きとび宇品まで一望に見渡せた。顔が腫れて、髪がぼうぼうの人たちが歩いてきた。その後、私も病気になり、貧血に悩まされた。(野崎)



～被爆体験を聞いて～

戦争も核もない平和な世界を子どもたちに渡せるよう、受け継ぐことの大切さ、必要性を改めて強く感じることができました。(パルシステム)



野崎さんが最後におっしゃった「資料館の展示はやさしい」の一言が、現実はいかにむごいものだったか想像させられました。核は人類が持つものではありませんね。(東京ほくと)

短い時間の中ではとても語りつくせない悲しくつらい体験をたくさんされたのに、私達に伝えるために耐えてくださっているのに頭が下がる思いでした。(全労済)

被爆体験をされた方でなければ、知りえない事実を聞かせていただきました。平和資料館では伝わらない「臭い」のお話がとても印象的でした。(東都)

高齢となっていることを考えると、体をいたわり、これからも被爆体験を元気に語り続けてほしいと思います。(東京南部)



被爆者の方が体験したこと、させられた事実を無駄にしないよう今の私たちができるところをしていきたいと思っています。(東京保健)

参加者アンケートより

- ・ 世界中の人々がヒロシマに、8/6の式典に参加、参列できたらよいなと思いました。
- ・ いい体験ができて、うれしいです。
- ・ 東京の多くの生協の仲間がこうして集い気持ちをつなぐことはすばらしいと思いました。
- ・ “平和を維持する”このことがどれだけ難しいことであるかを実感しました。
- ・ 個人参加では体験することのできない機会を得ることができました。
- ・ 直接、被爆体験を聞き、継承していくことが難しくなっていくと思います。これからもこうした企画を継続していただきたいと思います。
- ・ ヒロシマの悲劇を繰り返さないよう今日学んだことを伝えていこうと思いました。

